

次に、B 類：「N_A+VR+N_O」の例文から二例取り上げ、述語論理式で表してみよう。この類は VR の V が自動詞のものである。

(15) 孩子哭醒了我 (李临定 2011: 263)

(子供が泣いて私を目覚めさせた)

泣キ ~ガ 泣ク ~ガ 目覚ル ~ガ

(15') 哭醒'[孩子, 我, 哭'(孩子)&到'{哭'(孩子), 醒'(我)}]

至ル ~ガ ~ニ

サレル ~ガ ~ニ ~コトヲ

(16) 我喊哑了嗓子 (李临定 2011:264)

(私が喉を叫び枯らした)

叫ブ ~ガ 叫ブ ~ガ 枯ル ~ガ

(16') 喊哑'[我, 嗓子, 喊'(我)&到'{喊'(我), 哑'(嗓子)}] ¹¹⁾

至ル ~ガ ~ニ

サレル ~ガ ~ニ ~コトヲ

次に、C 類：「N_A+V+N_O+VR+N_O」の例文を見てみよう。この類は VR の V が他動詞で直
接目的語を伴うため動詞が繰り返される動詞コピー文である。論理式は以下ようになる。

(17) 你们吵嘴吵醒了我 (李临定 2011: 266)

(あなたたちは口喧嘩して私を目覚めさせた)

スル ~ガ ~ヲ スル ~ガ ~ヲ 目覚ル ~ガ

(17') 吵醒'[你们, 我, 吵'(你们,嘴)&到'{吵'(你们,嘴), 醒'(我)}]

至ル ~ガ ~ニ

サレル ~ガ ~ニ ~コトヲ

(18) 他喝酒喝红了脸 (李临定 2011: 266)

(彼は酒を飲んで顔を赤くした)

飲ム ~ガ ~ヲ 飲ム ~ガ ~ヲ 赤クナル ~ガ

(18') 喝红'[他, 脸, 喝'(他, 酒)&到'{喝'(他,酒), 红了'(脸)}]

至ル ~ガ ~ニ

サレル ~ガ ~ニ ~コトヲ

以上のように、(13) から (18) の文はすべて、 γ_1 に「原因を表す命題」が生じ、 γ_2 の
第 2 項に「結果を表す命題」が生じている。このように VR の使役義は原因と結果が結びつ

いて「因果関係」を構成する結果生じるものであり、「原因使役」を特徴とすることがわかる。

3.2.1.2 使役性を持たない「VR+対象」の意味構造

次に、李临定が示した例文のうち「VR+対象」構造を持つにも関わらず、使役性を持たないとされた四つの類型を考察する。これらを D、E、F、G 類とし、それぞれの類に分類されている例文を取り上げ、意味構造を論理式で表してみよう。まず、D 類は V と R が共に他動詞のもので、この類としては、以下のような例文がある。

(19) 我看懂了这幅画了 (李临定 2011: 256)

(私はこの絵を見て解った)

この文は、“我看这幅画”(私はこの絵を見た)と“我懂了这幅画”(私はこの絵が解る)という二つの命題を含む。二つの命題は、前者が時間的に先に起きた事象である「先行命題」で、後者が続いて起きた結果事象を表す「結果命題」であるが、二つの命題の主語が同一なので外部要因による「原因-結果」の関係にない。また、“这幅画”は VR “看懂”の「対象」であるが、(13) の文とは異なり R “懂”が“这幅画”の結果状態を表していないため、「私が、この一枚の絵に、～という状態にさせる」という命題は生起しない。したがって、この文の論理式は以下ようになる。二つの命題の時間的な前後関係を示すため、「～ガ～ニ至ル」の意味を表す論理述語「到'」を用いる。

見ル ～ガ ～ヲ ワル ～ガ ～ヲ

(19') 看'(我,这幅画)&到'[看'(我,这幅画), 懂'(我,这幅画)]

見テ～ガ ～ヲ 至ル ～ガ ～ニ

次に、E 類は V が他動詞、R が自動詞（または形容詞）で、R が文の主語と意味関係を構成するものである。例えば、以下のような例文がある。

(20) 我已经看腻了这样的事情了 (李临定 2011: 258)

(私はこのような事はすでに見飽きた)

この文は“我看这样的事情”(私はこのような事を見た)と“我腻了”(私は飽きた)という二つの命題を含む。二つの命題は同一主語のため、外部要因による「原因-結果」の関係にはなく、「先行事象-結果事象」と捉えられる。また、“这样的事情”は VR “看腻”の「対象」であるが、R “腻”は“这样的事情”を主体とする“这样的事情腻”という命題を構成しないため、「私が、このような事に、～という状態にさせる」という使役を表す命題は生起しない。したがって、この文を論理式で表すと以下ようになる。

見ル ～ガ ～ヲ 飽キル～ガ

(20') 看'(我,这样的事情)&到'[看'(我, 这样的事情), 膩(我)]

見テ～ガ ～ヲ 至ル ～ガ ～ニ

次に、F類は Rが形容詞で、RがVと意味関係を持つものである。例えば、以下のよう
な例がある。

(21) 父亲喝多了酒，独睡在房里（李临定 2011: 261）

（父親は酒を飲みすぎ、一人部屋で眠った）

「使役」と関わる“父亲喝多了酒”の部分だけを見てみよう。この文は“父亲喝酒”（父
が酒を飲む）と“喝多”（飲んだのが多い）という命題を含む。この二つの命題には因果関
係はない。注意すべきは、結果命題は「酒が多い」ではなく「飲んだのが多い」であり、R
“多”は「対象」と関係せずV“喝”と関係する。これを論理式で表すと以下のようになる。

飲ム～ガ ～ヲ 多イ ～ガ

(21') 喝'(父亲,酒)&到'[喝'(父亲,酒), 多'{喝'(父亲,酒)}]

飲ミ～ガ ～ヲ 至ル ～ガ ～ニ

次に、G類はVが自動詞（または形容詞）、Rが他動詞のものである。以下のような例文
がある。

(22) 我跑丢了一只鞋（李临定 2011: 262）

（私は走って片方の靴を失くした）

この文は、“我跑”（私が走る）と“我丢了一只鞋”（私が片方の靴を失くした）という二
つの命題を含む。この二つの命題が「原因 - 結果」の関係にあるかどうかは議論の余地が
ある。もし、この文が「私が走って、その結果片方の靴を失くした」という意味であれば、
二つの命題は「先行事象 - 結果事象」であるが、「私が走ることが、片方の靴を失くすとい
う状態にした」という意味だとすれば、「原因 - 結果」の関係になる。しかし、この文では
「私が、片方の靴に、～とういう状態にさせた」という命題は生起しない。なぜならば、
結果命題“我丢了一只鞋”を構成するR“丢”は動作主“我”の動作を叙述しているからで
ある。したがって、この文の論理式は以下のようになる。

走ル～ガ 失クス ～ガ ～ヲ

(22') 跑'(我) &到'[跑'(我), 丢'(我,一只鞋)]

走り～ガ 至ル ～ガ ～ニ

これらのことから、「VR+対象」構造の R が「対象」の結果状態を表さない (7)~(10) の文では、文全体の意味構造は 3 項関数をとらず、使役の意味は生起しないことがわかる。

3.2.1.3 V と R が結びつく VR 構造の意味構造

前述の例文のうち、(21) 以外の文はすべて V と R がそれぞれ名詞成分の N_A か N_O と結びついているが、(21) の文では V と R が名詞成分と結びつかず R が V と結びついている。李臨定 (2011) によれば、このタイプの VR 構造の R は形容詞に限られる。これまでの議論では、R が自動詞か形容詞かは分けずに論じてきたが、ここでは R が形容詞で、R が V と意味的に結びつく VR 構造を考察することにする。加藤 (2009) は、形容詞結果補語を馬真、陆俭明 (1997) の「意味指示」(“语义指向”) による分類に基づき 13 タイプに分類し、論理式で明示した。加藤によれば、意味指示とは形式上に明示的に表れない「単語間の意味上の関係」である。加藤は、V と R が結びつく形容詞結果補語 R を、「述語動詞で表される動作行為そのものを意味指示する」タイプとして、以下のように分析している。

(23) 来早了 (来るのが早すぎた) (马、陆 1997: 158、加藤 2009 例文)

加藤によれば、この文は「来るのが早い」と「何者かが来る」という二つの命題を含み、以下のような論理式で表すことができる。

(23') 早'(来) & 来'(φ_i)

本論では、結果補語の構造は先行事象と結果事象を表わす二つの命題から構成されると位置づける。そこで、先行命題「誰かが来る」と結果命題「来るのが早い」という二命題の時間的前後関係を明示的に示すことにする。また、論理式の項は個体か命題をとるといふ原則を考慮して以下のように表記する。なお、形容詞結果補語については自動詞相当として関数として扱った。

(23'') 来'(φ) & 早'{来'(φ)}

このように、連言「&」の後の結果事象を表す命題は、「&」の前の先行事象を表す命題を項にとる 1 項述語として表すことができる。このようなタイプの VR 構造は、(9) の文のように目的語を伴ったとしても使役の意味は生じない。

3.2.2 使役を表す“得”構文の意味構造

“得”構文は、「V (動詞または形容詞) + 得 + CP (状態補語)」の形をとり、動作や状態の程度を表したり、動作がもたらす状態や結果を表したりする。状態補語の部分には、形

容詞、動詞句、主述構造などさまざまな構造をとることができる。そのうち「V得」の後ろに目的語を伴うもの、すなわち「(N) + V₁得 + N₀ + V₂」の構造を持つものが使役を表すと指摘されている（李臨定 2011、温琳 2008）。本稿では、このタイプの“得”構文が、基本的には使役性を持つ「VR+対象」と同じ構造であると考えている。

3.2.2.1 使役意味を持つ VR 構造と「得」構文

前述のように、「VR+対象」を含む文は、先行事象と結果事象が因果関係にあるとき、使役の意味を持つ。本稿では、使役を表す“得”構文が、これらの動補構造の拡張であるとする立場から分析を行なう。これらの対応関係を簡潔に示すと、以下のようになる。

(24) 使役を表す VR 構造と“得”構文の統語構造

a. VR 構造 …… VR + 対象
(動詞-結果補語構造)

b. “得”構文 …… V₁得 + N₀ + V₂ ⇒ [V得 + CP(=V₂)] + 対象(=N₀)
(動詞 - 結果補語構造)

このような基本的考えを基に、実際の例文の分析を試みる。李臨定 (2011: 326) は、動補式の“哭红了眼睛”と“得”構文の“哭得眼睛都红了”は共に「泣いたことが目を赤くなるようにさせた」という意味を表すと述べている。この二つの文の意味構造を考察するために、まず動補構造の文を論理式で表記してみよう。

(25) 哭红了眼睛 (泣いて目が赤くなった) (李臨定 2011: 325)

泣キ〜ガ 目〜ガ〜ヲ 赤イ 〜ガ

(25') 哭红'[φ, 眼睛, 哭'(φ) & 有'(φ, 眼睛) & 红'(眼睛)]

サレ 〜ガ〜ニ 〜トウ状態ニ

この文では、「泣いたことが目を赤くなるようにさせた」という使役の意味が生じている。「哭红'」は、V と R の結合から生じた使役関数で、「〜ガ〜ヲ〜トイウ状態ニサセル」という句型意味を構成している。次に、“得”構文を見てみよう。

(26) 哭得眼睛都红了 (泣いて目が赤くなった) (李臨定 2011: 325)

李臨定によれば、(25) と (26) の文は同じ意味を表し、共に使役の意味を持つ。そうであるならば、“得”の有無に関わらず使役の意味構造が成立することになる。しかし、(26) の文において“得”は不可欠の要素である。なぜならば、この文は“*哭都红了眼睛”とはいえないからである。“哭得眼睛都红了”では“都”により「目さえも赤くなった」という意味

が加わり、結果命題の表す状態が「高い程度」にあることを表している。このように意味が拡張されたために、“哭”と“紅”は直接結合できない。“得”はこれらを結合するための成分として機能している。すなわち、(26)の文における使役の意味は、“得”によって結合された「V得CP」によってもたらされる。この結合に“得”が不可欠だということを踏まえ、ここで生起する使役関数を「得[']」で表すことにする。この使役関数「得[']」は、「～ガ～ニ～トイウ状態ニサセル」という意味を表す3項関数を構成する。使役関数「得[']」を用いて(26)の文を論理式で表すと、以下のようになる。

泣キ～ガ モチ ～ガ ～ヲ 赤イ ～ガ モツ ～ガ [高程度]ヲ

(26') 得['] [φ, 眼睛, 哭'(φ)&有'(φ,眼睛)&红'(眼睛)&有' {红'(眼睛),都}]]
 サル～ガ～ニ ～トイウ状態ニ
 α β γ

このように、使役を表す「得」構文は、「得[']」を使役関数とする3項関数と捉えることができる。

(27) 得['] (α, β, γ)
 サル～ガ～ニ ～トイウ状態ニ

3.2.2.2 使役を表す“得”構文の意味構造

李臨定(2011)は、使役を表す“得”構文を七つの異なる文型に分けている。以下ではこれらの文について論理式を用いて表記し、意味構造を考察する。論理式は修飾語や副詞などの成分を省略して、使役に関わる部分のみ記述することにする。

(28) 痛苦折磨的^レ他吃不好饭, 睡不好觉 (李临定 2011: 320)

(苦痛が彼を苛んで、ご飯を十分食べられず、十分に眠れなくさせた)

苛ミ ～ガ ～ヲ 食ベラズ ～ガ ～ヲ 眠レイ ～ガ ～ヲ

(28') 得['] [痛苦, 他, 折磨'(痛苦,他)&吃不好'(他,饭)&睡不好'(他,觉)]

サル ～ガ～ニ ～トイウ状態ニ

(29) 有时(她)还整夜的哭, 哭得长富也忍不住生气 (李临定 2011: 320)

(時々(彼女は)一晩中泣き、長富に怒りを堪えられなくさせた)

この文の“她哭得长富忍不住生气”の部分論理式で表わすと以下のようになる。

泣キ～ガ 至ル ～ガ ～ニ

(29') 得['] [她, 长富, 哭'(她)&到' {哭'(她), 忍不住'(长富, 生气)}]]

サル ～ガ～ニ ～トイウ状態ニ

(30) 豌豆吃得人腿发软，心发躁，好多人都拉了肚子（李临定 2011: 321）

（エンドウ豆を食べて、足の力が抜け、心が苛立ち、多くの人が下痢をした）

この文の“豌豆吃得人腿发软，心发躁”の部分を論理式で表わすと以下ようになる。

食べ～が～ヲ 至ル ～が ～ニ

(30') 得' [豌豆, 人, 吃'(人, 豌豆)&到' {吃'(人, 豌豆), 发软'(腿)&发躁'(心)}]

サレ ～が ～ニ ～トウ状態ニ

(31) 这句话又说得大家笑起来（李临定 2011:321）

（この言葉を言うと、また皆は笑い出した）

言イ～が ～ヲ 至ル ～が ～ニ

(31') 得' [这句话, 大家, 说'(φ, 这句话)&到' {说'(φ, 这句话), 笑起来'(大家)}]

サタ ～が ～ニ ～トウ状態ニ

(32) 三个青年人……故意跑在前边不让五嫂追上，累得五嫂直喘气（李临定 2011: 322）

（三人の青年は……わざと前を走って五嫂を追いつかせないようにして、五嫂が疲れて息をきらすようにさせた）

この文の主語にあたる部分は“三个青年人……故意跑在前边不让五嫂追上”であるので、本来命題として記述すべきであるが、これを [事態 X] と捉え簡略表記すると、論理式は以下ようになる。

疲レ ～が 至ル ～が ～ニ

(32') 得' [[事態 X], 五嫂, 累'(五嫂)&到' {累'(五嫂), 直喘气'(五嫂)}]

サタ ～トガ ～ニ ～トウ状態ニ

(33) 他急得缩脖子，皱眉，掀鼻子，咧嘴，简直难看透了，惹得大家哈哈大笑（李临定 2011: 322）

（彼は焦って首を縮め、眉をしかめ、鼻をそり上げ、口を横に引き、まったくぶざまで、皆を大笑いさせた）

この文の主語にあたる部分は“他急得缩脖子，皱眉，掀鼻子，咧嘴，简直难看透了”であるので、本来命題として記述すべきであるが、これを [事態 X] と捉え簡略表記すると、論理式は以下ようになる。

影響シ ～が ～ニ 至ル ～が ～ニ

(33') 惹得' [[事態 X], 大家, 惹得' ([事態 X], 大家)&到' {惹得' ([事態 X], 大家), 哈哈大笑' (大家)}]

サタ ～トガ ～ニ ～トウ状態ニ

(34) 村子里，更是漫天的云雾，说得她不像个人（李临定 2011: 323）

（村中、さらにうわさがひどくなり、彼女を見るに耐えられなくさせた）

“村子里，更是漫天的云雾”は比喩的な表現で「村中に悪い噂が広がった」の意である。

“说”の動作主は、その“云雾”（悪い噂）を言った不特定の人々であるので、これを「φ」を用いて表記すると以下のような論理式になる。

言₁~ガ~ヲ 至_ル ~ガ ~ニ

(34') 得'[φ, 她, 说'(φ, 云雾)&到'{'说'(φ, 云雾), 一像'(她, 个人)}]

サ_セタ ~ガ~ニ ~ト₁₂₃状態ニ

3.2.3 使役を表す“把”構文

本節では、使役意味を持つ“把”構文について考察する。李临定（2011）は、目的語を持つ動補式の文型は、すべて“把”構文に書き換えられると述べている。また、前節で取り上げた目的語を持つ“得”構文についても、“把”構文に書き換えられると指摘している。

3.2.3.1 「VR+対象」と“得”構文から“把”構文への変換

李临定（2011）によれば、3.2.1.1 で例文として用いた「VR+対象」を含む文はすべて以下のように“把”構文に書き換えることができる。

(35) 「VR+対象」→“把”構文

- a. 风把路旁的树木吹弯了
- b. 伍拾子把身子挺直了
- c. 孩子把我哭醒了
- d. 我把嗓子喊哑了
- e. 他们吵嘴把我吵醒了
- f. 他喝酒把脸喝红了

また、3.2.2.2 で例文として用いた“得”構文も以下のように“把”構文に変換できる。

(36) “得”構文→“把”構文

- a. 痛苦把他折磨的吃不好饭，睡不好觉
- b. 她把长富哭得也忍不住生气
- c. 豌豆把人吃得腿发软，心发躁
- d. 这句话又把大家说得笑起来
- e. 把五嫂累得直喘气
- f. 把大家惹得哈哈大笑
- g. 把她说得不像个人

3.2.3.2 “把”構文の意味構造

松村は講義（2011）において、“把”構文は「~ガ~ニ~コトヲモタラス」と意味解釈することができ、広い意味で「授与」を表すので、「把」を[授与関数]とする3項関数「把'(α, β, γ)」で表すことができると述べている。

本論でも、松村の考えを支持し、“把”構文を「～ヲモタラス」の意味を表す授与関数と考える。以下ではこれを基に、「VR+対象」文と“得”構文から変換された“把”構文の意味構造を分析する。

3.2.3.3 「VR 構造」を含む“把”構文の意味構造

「VR 構造」を含む“把”構文 (35a) の文は以下のような論理式で表すことができる。

(35a) 风把路旁的树木吹弯了 (李临定 2011: 260)

(35a') 把'[风,路旁的树木,吹弯'[风,路旁的树木,吹'(风)&到'{吹'(风),弯'(路旁的树木)}}]

サレ	～ガ	～ニ	～コヲ
モタラス	～ガ	～ニ	～コヲ
α	β		γ

上記の論理式を簡単に表すと以下のような構造として示すことができる。すなわち、“把”構文の論理構造では、「授与」を表す 3 項関数が文型意味として生起し、 γ 項に元の「VR+対象」文“风吹弯了路旁的树木”の論理式が代入される。

(35a'') 把' (α , β , γ)

モタラス ～ガ ～ニ ～コヲ

[授与関数]

γ = 「VR 構造+対象」の論理式 = [使役関数]

3.2.3.4 “得”を含む“把”構文の意味構造

“得”を含む“把”構文 (36a) の文は以下のような論理式で表すことができる。

(36a) 痛苦把他折磨的吃不好饭，睡不好觉 (李临定 2011: 320)

(36a') 把'[痛苦,他,得'[痛苦,他,折磨'(他)&到'{折磨'(他),吃不好'(他,饭)& 睡不好'(他,觉)}}]

サレ	～ガ	～ニ	～コヲ
モタラス	～ガ	～ニ	～コヲ
α	β		γ

この論理式では、「把'」は文型意味「～ガ～ニ～コトヲモタラス」を表す授与関数として機能している。授与関数「把'(α , β , γ)」の γ 項には、元の“得”構文“痛苦折磨的他吃不好饭，睡不好觉”の論理式が代入されている。

(36a'') 把' (α , β , γ)

モタラス ～ガ ～ニ ～コヲ

[授与関数]

γ = “得”構文の論理式 = [使役関数]

以上のことから、使役を表す“把”構文は、「授与」と「使役」の意味を持つといえる。

3.2.4 まとめ

本節では、“让”、“叫”、“使”、「兼語文」などの兼語構造を基盤とした使役文に対し、使役を表す「VR 構造」、「得」構文、「把」構文は VR 構造を基盤とした使役文として統一的に捉えられるという主張を行った。これらの文は、「原因命題」と「結果命題」の二つの命題を含み、結果補語（句）が VR 構造の「対象」の結果状態を表すとき、使役の意味が生起する。使役を表す“得”構文は、「VR 構造」の拡張であり、「得’」は「使役関数」として機能する。一方、使役マーカールを持たない「VR 構造」は VR に V と R の結合により生起した使役関数「VR’」が編入されていると考えられる。使役を表す“把”構文は、「VR 構造」と“得”構文の変換と捉えることができ、使役意味は「VR 構造」あるいは“得”構文の意味構造によって生起していると捉えられる。

3.3 本章の結び

本章では、兼語構造と動補構造の二つの構造と使役の関係に焦点を置いて、現代中国語の使役文について統語的、意味論的分析を試みた。使役を表すさまざまな文の意味構造の考察から、中国語の使役構文は、兼語構造を基盤とする使役文と、動補構造を基盤とする使役文の二つの体系として捉えられるという結論を得た。

兼語構造を基盤とする使役文は、統語的には V_1 が動作性動詞であるもの（多義使役兼語文）と、“让”、“叫”、“使”などのもの（単純使役兼語文）に分けられるが、これらは共通の意味構造を持つ使役兼語文として捉えることができる。多義使役兼語文と単純使役兼語文は共に使役述語を関数とする 3 項関数の論理構造を持つが、第 3 項（ γ 項）に現れる特徴が異なっている。多義使役兼語文は、 γ 項の第一命題に N_1 の動作意味が現れることで、「 N_1 が N_2 に～する」という動作意味と「 N_1 が N_2 に～させる」という使役意味の二つの意味を持つ。単純使役兼語文では、動作意味が現れず、“让”“叫”“使”は使役意味のみを表し、 γ 項の第一命題には N_1 が「力 (force)」を持つという意味が生起する。単純使役兼語文は、 N_1 が「有情物」、「無情物」、「命題」の場合で、 N_1 が有する「力 (force)」の種類が異なる。

（兼語構造「 $N_1+V_1+N_2+V_2$ 」を基盤とする使役文）

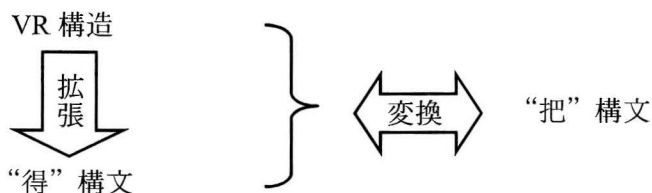
{ 多義使役兼語文… $V_1 = \text{動作} + \text{使役}$
 単純使役兼語文… $V_1 = \text{有}'(N_1, [\text{force}]) + \text{使役}$

{ $N_1 = \text{「有情物」}$ で V_2 が意志的動作の場合: $[\text{force}] = \text{「指令力」}$
 $N_1 = \text{「無情物」}$ 、「命題」、あるいは「有情物」で V_2 が非意志的動作の場合:
 $[\text{force}] = \text{「原因力」}$

動補構造を基盤とする使役文としては、「VR 構造」、「得」構文、「把」構文があり、「動補構造+対象」という共通の構造を持つ。これらは、「原因命題」と「結果命題」の二つの

命題を含み、被使役者が結果命題の動作主または経験者であるとき、使役の意味が生起する。使役を表す“得”構文は、「VR 構造」の拡張であり、「得’」は「使役関数」として機能する。一方、使役マーカータを持たない「VR 構造」は音声形式を持たない「使役関数」が編入されていると考えられる。使役を表す“把”構文は、「VR 構造」と“得”構文の変換と捉えることができ、使役意味は「VR 構造」あるいは“得”構文の意味構造によって生起しているものと捉えられる。これらの構造は以下のような相互関係にある。

(動補構造を基盤とする使役文)



以上のように、本章では、中国語の使役構文が、兼語構造と動補構造という中国語に特有な二つの構造を基盤とした体系として捉えられることを示した。

(注)

- 1) 命題論理、述語論理は、記号論理学の手法を自然言語の記述に用いたものである。命題論理は、文を命題として扱い、記号を用いて命題と命題の関係を明示的に記述する。用いられる連結記号には、連言「&」、選言「V」、含意「→」、否定「¬」などがある。述語論理は、命題の内容すなわち文の内部構造を扱う。基本的には、命題を述語 (predicate) とその述語が要求する項 (argument) の組み合わせとして表記する。述語が要求する項の数は述語により異なり、項の数に従い 1 項述語、2 項述語、3 項述語のように呼ばれる。述語論理において述語は関数として機能するので、1 項関数、2 項関数、3 項関数ともいう。述語論理の表現には、一般に記号や自然言語の表現にプライム「'」を付した形式が用いられるが、本章では述語にのみプライム「'」を付す簡易表記を用いた。
- 2) 使役を表す“叫”、“让”、“使”などが、動詞であるか、前置詞であるかについてはこれまで多くの議論があり、一致した見解には至っていない。『現代漢語辞典(第5版)』(2005)では、“叫”、“让”は受動文に用いる場合は前置詞だが、使役の意味では動詞とされ、また“使”は使役を表す動詞とされている。朱德熙(1982)は、“叫”“让”を受け身で用いた場合でも、使役を表す場合でも前置詞であるとし、使役の“叫”“让”は語彙的意味を持たず、動詞を用いた兼語式の文とはその点で異なっていると述べている。本論では、使役を表す“叫”“让”“使”は、単独で述語として用いられずアスペクトがつけられないことから動詞とは異なり、また名詞成分を目的語に取るので助動詞ではなく、前置詞とみなすが、前置詞も V_1 - V_2 連続構造の V_1 として機能すると捉える。
- 3) 李臨定(2011)は、 V_1 が“劝”“告诉”“指示”などの「言う」の意味を含む兼語文「 $N_1+V_1+N_2+V_2$ 」では、二重目的語文との区別が曖昧であると述べている。李によれば、たとえば“你劝他干什么?”(あなたは彼に何をするように勧めた?)は、「動作行為」について聞いていて、その答えの“我劝他和同志门好好谈谈”(私は彼に同僚とよく話

すように勧めた)は兼語文で使役を表す。一方、“你劝他什么?”(彼にどんなことを勧めた?)は「事柄の内容」を聞いていて、その答えの“我劝他和同志门好好谈谈”(私は彼に同僚とよく話すことを勧めた)は二重目的語文であり使役の意味はないとしている。このようにこれらの動詞を用いた文は形式上兼語文か二重目的語文か曖昧で、発話の状況に依存しているといえる。例文(5)は命令文であることから、使役の意味を持つ兼語文とみなすことができると考える。

- 4) 李臨定(2011:199)は、“你使我很为难”のように“使”の前に「人」が用いられることもあるが、この文の“你”は“你做了某件事情”という出来事を表し、“使”構文の前には一般に出来事が現れると述べている。
- 5) 「論理形式」とは、「その対象がどのような事態に現れうるかという論理的可能性の形式」を指す。たとえば、赤や青や黄の事物は、色という論理形式を持つ(ヴィトゲンシュタイン著、野矢茂樹訳『論理哲学論考』2003、注釈(10):184)。
- 6) たとえば、次のような“使”構文では N_1 に有情物が用いられている。
 - (1) 他使我很为难(彼は私を困らせた)(李臨定2011:199)
 - (2) 他使我很生气。(彼は私を怒らせた)(邓守信1991:30)しかし、(1)の“很为难”や(2)の“很生气”は非意志的動作なので、主語の“他”は「指図して~させる」という力を発揮する主体としては機能しない。このことから、“使”構文では、有情物の N_1 も「原因」と捉えられる。
- 7) たとえば、“我让他很失望”(私は彼を失望させた)(邓守信1991:30)など。
- 8) 《现代汉语句型(增订本)》(2011)。初版には《现代汉语句型》(1986)がある。
- 9) 「対象」は、VRの目的語名詞句の意味役割として用いている。意味役割は名詞句の述語との意味的關係を表わすものであるが、ここでの述語は動詞Vではなく、VRである(朱德熙1982:127参照)。
- 10) 出来事を引き起こす現象(自然力)にどのような意味役割を認定するかについてはさまざまな見解があるが、ここではFillmore 1971(フィルモア1975収録「格文法の諸問題」:246-249)の見解に従い、「道具(格)」とした。
- 11) この文のように N_0 が N_A の(身体の)部分である場合、 N_0 と N_A の關係を明示的に示すならば、次のように表記できる。

(16') 喊哑'[我, 嗓子, 喊(我)&有'(我, 嗓子)&哑'(嗓子)]y

第4章 VRの項整合と意味構造

4.0 はじめに

「動詞 - 結果補語複合語 (verb resultative compound、以下 VR という)」を含む文が使役を表わすことについては、すでに多くの研究がなされているが、VR 構文の使役の意味がどのような意味生成過程から生じるのかについては十分に解明されているとはいえない。VR は、“了”や“过”などのアスペクトを伴うことができ、また以下のようにそれ自体が動詞と同じように自動詞と他動詞の区別を持つことから語彙的な複合動詞と捉える事ができる。

(1) a. 我喝醉了 <自動詞>

(私は酒を飲んで酔った)

b. 孩子哭醒了我 <他動詞> (李臨定 2011: 263)

(子供が泣いて私を目覚めさせた)

しかし、VR はこのように統語上一つの動詞のようにふるまう一方、意味的には V と R が独立した述語として意味を構成している。(1-a) では、V “喝”は“我”と意味関係を結び、“我喝(酒)”の意味を構成し、R “醉”は“我”と意味関係を結び“我醉”の意味を構成している。また、(1-b) では、V “哭”は“孩子”と関係を結び“孩子哭”を構成し、R “醒”は“我”と関係を結び、“我醒”の意味を構成している。注目すべきは、(1-a) では主動詞“喝”が他動詞であるのに自動詞 VR を形成し、(1-b) では主動詞“哭”が自動詞であるのに他動詞 VR を構成している点である。このように、VR 文の意味構造を分析するにあたっては、V と R がどのような項と結びつき全体の意味を構成しているのかという視点が必要になる。

袁毓林 (2001) は、V と R が個別にとる項と V と R が結合した VR のとる項に注目し、「配価 (valence)」¹⁾ 理論を援用した分析を行った。「配価」は本稿が採用する「述語論理」(predicate logic) とは理論的な枠組が異なるが、文の名詞成分を述語の項として捉える基本的な考えは同じである。実際に袁毓林 (2001) において言及される 1 価述語、2 価述語、3 価述語は、述語理論の 1 項述語、2 項述語、3 項述語に相当する。

本章では、袁毓林の「項整合」の分類に基づき、「項整合」が異なるタイプの VR を含む文の意味構造を論理式で示し、「項整合」が意味構造上どのように現れるかを考察する。

4.1 袁毓林 (2001) の分析

袁毓林 (2001) は、「配価 (valence)」の観点から VR 構造の分析を行なった。袁毓林が示したように、VR のとる配価数は構成する V と R の配価数ともその総和とも異なっている。この原因について、袁毓林は「動結式は内部が強い結合力で結ばれているため、構成成分

がもともと持っている項 (argument) を調整し統合する」からであると述べている。袁毓林は、VR のこのような「項整合 (integration)」のパターンを「併価」、「消価」、「共価」に分類した。以下では袁毓林が示した VR の「項整合」の考え方について概観する。項整合の記号表記は、袁毓林では複合語²⁾を VR、それぞれの動詞(形容詞を含む)を V とし「V+V→VR」のように表記されているが、本論では動詞を V、結果補語を R とし「V+R→VR」と改め、それぞれの配価数を右上に付す。なお、例文の日本語訳はすべて筆者訳である。

4.1.1 項整合

袁毓林によれば、「併価」は VR の配価数が V と R の配価数の総和と等しくなるもので、以下のような例を挙げている。

- (2) 小芳哭红了眼睛 {小芳哭, 眼睛红} $V^1+R^1\rightarrow VR^2$ (袁毓林 2001: 401)
 (小芳は泣いて目を赤くさせた)

この文の VR “哭红” は 2 価動詞で、構成成分の“哭”と“红”はそれぞれ 1 価である。袁毓林によれば、「項整合」の過程は以下のとおりである。V の項である“小芳”の意味役割は「動作主」(A₁) であるが、項整合され VR の「動作主」(A) に繰り上がる。また、“红”の項である“眼睛”の意味役割は「経験者」(E₂) であるが、項整合され VR の「受動者」(P) に繰り上がる。

次に、「消価」は R が前の V を項とするために、VR の配価数が 1 となり、構成成分の配価数の総和より 1 価少なくなる。たとえば以下のような例がある。

- (3) 我走晚了 {我走, 走得晚} $V^1+R^1\rightarrow VR^1$ (袁毓林 2001: 402)
 (私は帰るのが遅くなった)

さらに、「共価」は V と R の配価数の総和から共通の成分の配価を除いた数が VR の配価数となるもので、その数は V または R の配価数と等しい。たとえば、以下のような例がある。

- (4) a. 小鸡冻僵了 {小鸡冻, 小鸡僵} $V^1+R^1\rightarrow VR^1$ (袁毓林 2001: 403)
 (ひよこが凍え死んだ。)
 b. 他洗干净了桌布 {他洗桌布, 桌布干净} $V^2+R^1\rightarrow VR^2$ (袁毓林 2001: 404)
 (彼がテーブル掛けを洗ってきれいにした)
 c. 我问明白了事情经过 {我问事情经过, 我明白事情经过} $V^2+R^2\rightarrow VR^2$
 (私は事の経緯を聞いて知った) (袁毓林 2001: 404)

しかし、袁毓林は、構成要素の配価数から VR の配価を考察するこのようなボトムアップ式の還元分析には問題があると述べている。袁毓林によれば、VR 構造はひとつのまとまった構造であり、それ自体が特定の配価能力と規則を持っている。

4.1.2 項整合と VR の配価の不一致

「消価」や「共価」の結果は、VR を構成するそれぞれの動詞の配価数の総和から重複した部分を除いたものなので、これを集合演算 (operation on sets) の「和集合」と見なすことができる。「消価」や「共価」を「項整合」した結果、その配価数が VR の配価数に一致するならば、還元分析に一致しているといえる。しかし、計算の結果が一致しない場合がある。たとえば、以下のような例では、集合演算の結果より VR の配価数が少なくなり、すなわち「減価」されている。

- (5) a. 小明学好了 (明くんは学んで習得した) $V^2+R^1 \rightarrow VR^1$ (2-1)
 b. 他把小强教好了 (彼は強くんに教えて習得させた) $V^3+R^1 \rightarrow VR^2$ (3-1)
 (袁毓林 2001: 406)

また、VR の配価数が集合演算の結果より多くなる場合もある。

- (6) a. 爷爷累病了 (お祖父さんは疲れて病気になった) $V^1+R^1 \rightarrow VR^1$ (等価)
 b. 农活累病了爷爷 (畑仕事がお祖父さんを疲れさせて病気にした)
 $V^1+R^1 \rightarrow VR^2$ (増価)
 c. 妹妹急哭了 (妹が気をもんで泣いた) $V^1+R^1 \rightarrow VR^1$ (等価)
 d. 这事急哭了妹妹 (この事が妹の気をもませて泣かせた) $V^1+R^1 \rightarrow VR^2$ (増価)
 (袁毓林 2001: 406)

袁毓林によれば、上記の“累病”、“急哭”のような VR には自動詞用法と他動詞用法がある。(6-a)、(6-c) が自動詞用法で、(6-b)、(6-d) が対応する他動詞用法である。(6-a) では、構成する二つの動詞成分はそれぞれ“爷爷累”、“爷爷病”を構成する 1 価動詞であるが、“爷爷”が重複しているために VR の配価数も 1 価動詞となり、集合演算の結果と一致している(「等価」)。しかし、(6-b) では「使役関係」を通して、新たな項が追加されている。袁毓林は、「使役関係とは、ある使役原因(すなわち使役者(Cau))が受動者(P)をある状態にさせることである」と述べている。たとえば、(6-a) の自動詞用法で動作主(あるいは経験者)であった“爷爷”は、使役化された(6-b) の文では受動者(P)となり、外部からもたらされた使役原因が使役者(Cau)となったため、その結果「増価」され 2 価動詞となったと説明している。

4.2 VR の項整合と意味構造

本節では、袁毓林の VR についての配価理論による分析において、「併価」、「消価」、「共

価」に分類された例文について命題論理と述語論理を用いて表記し、VR 構文の意味の生成過程を分析する。なお、述語論理の表記は、述語のみにプライム「'」を付す簡易表記を用いる。

4.2.1 併価タイプ

「併価」とは、VR の配価数が V の配価数と R の配価数の総和に等しい項整合で、2 価と 3 価の VR をつくる。

$$\textcircled{1} V^1 + R^1 \rightarrow VR^2$$

このタイプの VR は、1 価の述語動詞と 1 価の補語から 2 価の VR を構成する。袁毓林は、このような VR を含む文として、以下のような例を挙げている。

- (7) a. 小芳哭红了眼睛 (小芳は泣いて目を赤くさせた)
b. 爸爸走肿了双脚 (お父さんは歩いて両脚がむくんだ)
c. 弟弟笑哑了嗓子 (弟は笑って喉を枯らした) (袁毓林 2001: 401)

これらの VR の動詞 V は 1 価動詞で、補語 R も 1 価である。袁毓林の分析によれば、V の「動作主」項 (A_1) は項整合を経て VR の「動作主」(A) に繰り上がり、統語上 VR の主語となる。R の「経験者」項 (E_2) は項整合を経て VR の「受動者」(P) に繰り上がり、統語上 VR の「目的語」となる。袁毓林は、このような項整合の過程を以下のように図式化している。

$$(8) V^1\{A_1\} + R^1\{E_2\} \rightarrow VR^2\{A, P\} \quad \text{このうち、} A=A_1, P=E_2 \quad (\text{袁毓林 2001: 402})$$

この式を補足して説明しておこう。このタイプの VR の V と R はそれぞれ 1 価で、V と R のそれぞれの項が VR の項にそのまま反映され (袁毓林は繰り上がると述べている) 2 価の VR を構成するので、項の増減はない。たとえば、(7-a) の文“小芳哭红了眼睛”を例にとれば、以下のようなになる。

$$(8') \text{哭}\{\text{小芳}\} + \text{红}\{\text{眼睛}\} \rightarrow \text{哭红}\{\text{小芳}, \text{眼睛}\}$$

このように、袁毓林の分析は V と R がとる項構造とそれが結びついた VR がとる項構造の統語的事実を示している。しかし、この分析では、→の右側に示されている VR の項構造“哭红{小芳, 眼睛}”は、“哭红”が 2 項であるという情報のみしか示されていない。V と R の項構造“哭{小芳}”、“红{眼睛}”は、どのように VR の項構造と結びついているのか。以下ではこの点を明確にするために、袁毓林の用いた例文について、命題論理と述語論理を用いて意味構造を示すことにする。まず、(7-a) の文を見てみよう。

$$(7-a) \text{小芳哭红了眼睛} \quad (\text{小芳は泣いて目を赤くさせた})$$

この文は、「小芳が泣いて、目を赤くさせた」という意味で、「～サセル」という意味を表している。「～サセル」は、基本的に「～ガ～ニ～コトヲサセル」という意味構造を持ち、これを述語論理式で表すと「サセル'(α, β, γ)」という式で表すことができる。すなわち、「～サセル」は、3項を持つ論理述語「サセル'」であり、3項関数として捉えられる。この「～ガ～ニ～サセル」という構造を(7-a)の文に当てはめると、(7-a)の文は「(小芳)ガ、(目)ニ、(小芳が泣いて、目が赤くなる)トイウ状態ニサセル」という構造として捉えられる。(7-a)の文では述語はVR“哭紅”のみであるので、論理述語「サセル'」の機能は“哭紅”が担っていると考えられる。そこで、(7-a)の文を以下のような意味構造として捉えることにする。

(9) 哭紅'(α, β, γ)

サセル' ～ガ ～ニ ～トイウ状態ニ

この式の項の α と β は個体で、 γ は命題である。「～ガ」にあたる α 項には“小芳”が入り、「～ニ」にあたる β 項には“眼睛”が入る。

(9') 哭紅'(小芳, 眼睛, γ)

γ 項は「小芳が泣いて、目が赤くなる」という命題を表す論理式が入る。この命題は、“小芳哭”(小芳が泣いた)と“眼睛红了”(目が赤くなる)の二つの命題を含む複合命題である。部分命題を論理式で示すとそれぞれ「哭'(小芳)」、「有'(眼睛, 红)」と表記でき、これを単純に連言「&」で結ぶと「哭'(小芳) & 有'(眼睛, 红)」になるが、この式では“小芳”と“眼睛”の関係が示されていないので、この関係を明示する必要がある。 γ 項に含まれる命題をすべて表記すると以下ようになる。

(9'') γ 項の論理式：

哭'(小芳)&有'(小芳, 眼睛)&有' {有'(小芳, 眼睛), 红}&有' [有' {有'(小芳, 眼睛), 红}, 了]

$\gamma 1$

$\gamma 2①$

$\gamma 2②$

$\gamma 3$

[時相]

[時態]

(意味役割)

(量化)

(着点)

上記の式の γ 項の初めには命題表現「小芳が泣く」を表す論理式「哭'(小芳)」が生起する。「小芳が泣く」は動作であり、“小芳”は「動作主」の意味役割を持つことを表している($\gamma 1$)。続く命題は「(小芳の)目が赤くなる」であるが、まず“眼睛”が“小芳”の“眼睛”であることを表す必要がある。これは「有'(小芳, 眼睛)」(全体と部分)と表記できる。“眼睛”は、“小芳”の「属格」であり、同時に「全体の部分」であることを表している($\gamma 2$)

①。次に、「(小芳の) 目が赤くなる」は「(小芳の) 目が赤い」という命題を含む。これは「(小芳の) 目が、赤いという [属性] を持つ」と捉えられるので、「有’ {有’(小芳, 眼睛), 红}」(部分の質の決定) という論理式で表すことができる ($\gamma 2$ ②)。 $\gamma 2$ は、“眼睛”が全体の部分であるという関係を表し、さらに部分が“红”(赤い) という属性を持つことで部分が確定しているので「量化」といえる。また、“红”はここで“哭”という動作の「終わり」を表し [時相] を構成している(松村 2011 講義³⁾)。 $\gamma 2$ の式は「全体と部分を規定する命題が属性を持つ」ことを示しているので、このことから [時相] は「命題の属性」であると考えられる。さらに、最後の部分には「(小芳の) 目が赤い」ことが実現したということを表す命題が生起するが、これは「有’ [有’ {有’(小芳, 眼睛), 红}, 了]」という論理式で表記できる ($\gamma 3$)。この式は「 \sim という状態なる」という [完了] の [時態] を表している。また、この式は $\gamma 2$ の「属性を持つ命題」が [完了] という属性を持つことを示しているので、このことから [時態] は [時相] の後に生起する「属性を持つ命題の属性」であると考えられる。このように γ 項はの $\gamma 1$ には「意味役割」が、 $\gamma 2$ には [時相] が、 $\gamma 3$ には [時態] が現れる。 [時相] はある種の「量化」であり、[完了] は「着点」であるので、 γ 項は、 $\gamma 1$ (意味役割)、 $\gamma 2$ (量化)、 $\gamma 3$ (着点) を構成しているともいえる。

γ 項の式を (9’) の式に代入し、(7-a) の文全体の意味構造を表すと、論理式は以下のようになる。

(7-a’) 哭红’[小芳,眼睛,哭’(小芳)&有’(小芳,眼睛)&有’ {有’(小芳,眼睛), 红}]
 サレ_レ ~ガ_レ ~ニ
 α β

&有’[有’ {有’(小芳,眼睛), 红}, 了]]
 \sim トウ状態ニ
 γ

(7-a) と同様のタイプの (7-b) と (7-c) の例文の意味構造も論理式で表してみよう。

(7-b) 爸爸走肿了双脚 (お父さんは歩いて両脚がむくんだ)
 (7-b’) 走肿’[爸爸,双脚,走’(爸爸)&有’(爸爸,双脚)&有’ {有’(爸爸,双脚), 肿}]
 サレ_レ ~ガ_レ ~ニ
 α β

&有’[有’ {有’(爸爸,双脚), 肿}, 了]]
 \sim トウ状態ニ
 γ

(7-c) 弟弟笑哑了嗓子 (弟は笑って喉を枯らした)

(7-c') 笑哑'[弟弟,嗓子,笑'(弟弟)& 有'(弟弟,嗓子)&有' {有'(弟弟,嗓子),哑}]

サレ ~が ~に
α β

&有'[有' {有'(弟弟,嗓子),哑},了]]

~トウ状態ニ

γ

②V²+R¹→VR³

次に、Vが2価、Rが1価で、項整合されたVRが3価になる例を見てみよう。袁毓林はこのタイプのVRを含む文として次のような例を挙げている。

(10) a. 这些排骨爷爷砍钝了两把刀

(この骨付き肉はおじさんが叩き切って二丁の包丁を鈍らせた)

b. 这几扇窗我擦脏了三块抹布

(この何枚かの窓は私が拭いて三枚の雑巾を汚した)

c. 这床被子妈妈洗湿了两双鞋

(この掛布団はお母さんが洗って二足の靴を濡らした)

(袁毓林 2001: 402)

袁毓林の分析では、このタイプのVRのVは2価で、Vの動作主(A₁)は項整合を経てVRの動作主(A)に繰り上がり、統語上VRの主語となる。Vの受動者(P₁)は項整合を経てVRの使役者(Cau)、すなわちある「動作-結果」の複合出来事の使役者(causer)に繰り上がり、統語上VRの主語あるいはVRの構成する主述述語の主語となる。Rは1価で、項の意味役割は経験者(E₂)で、項整合を経てVRの受動者(P)になり、統語上VRの目的語となる。袁毓林はこのような項整合の過程を以下のように図式化している。

(11) V²{A₁, P₁}+R¹{E₂}→VR³{A, P, Cau} そのうち、A=A₁、P=E₂、Cau=P₁

(袁毓林 2001: 402)

袁毓林の考えを補足しておこう。たとえば、(10-a)の文“这些排骨爷爷砍钝了两把刀”を(11)の式に当てはめると以下ようになる。

(11') 砍{爷爷, 这些排骨}+ 钝{两把刀}→砍钝{爷爷, 两把刀, 这些排骨}

袁毓林が、Vの動作の対象である“这些排骨”がVRの使役者(Cau)に繰り上がると述べているのは、“这些排骨”が「話題化(または主題化, topicalization)」⁴⁾され上位の階層に移動したことを示している。この文が複雑に見えるのは、話題化される前の元の文が動詞コ

ピー式であるためである。そのため、袁毓林 (2010: 466) は (10-a) のような文を「コピー式話題文」と呼んでいる。袁毓林によれば、動詞コピー式話題文は元の文から以下のように派生する⁵⁾。

- (12) a. 爷爷砍这些排骨砍钝了两把刀 (動詞コピー文)
 b. 砍这些排骨爷爷砍钝了两把刀 (話題化)
 c. 这些排骨爷爷砍钝了两把刀 (コピー動詞の削除) = (10-a) の文
 (袁毓林 2010: 464-466)

(12-a) を見ると、この文は、“爷爷砍这些排骨”と“爷爷砍钝了两把刀”という二つの命題を含んでいることがわかる。文頭の“爷爷”は第一命題と全体の命題の「動作主」役割を担うので、「動作主」を主語とした文を基本の文と考えてよい。すなわち、(12-a) の文が「元位置」で、(12-c) = (10-a) の文は元位置からの派生であると位置づけられる。

そこで、(10-a) の文にもどると、この文は“爷爷砍这些排骨”と“这些排骨砍钝了两把刀”の二つの命題として捉えられる。これを論理式で示すと以下のようなになる。

(10-a')

砍'(爷爷,这些排骨)&砍钝'[这些排骨,两把刀,砍'(爷爷,这些排骨)&用'(爷爷,这些排骨),刀]
 α β $\gamma 1①$ $\gamma 1②$
 サレ ~ガ ~ニ
 &有'(刀,两把)&有'{有'(刀,两把),钝} & 有'[有'{有'(刀,两把),钝},了]]
 $\gamma 2①$ $\gamma 2②$ $\gamma 3$
 ~トウ状態ニ

この論理式は、「砍'(爷爷, 这些排骨)」と「砍钝'[这些排骨, 两把刀, 砍'(爷爷, 这些排骨) & 用'(爷爷, 刀)&有'(刀, 两把)&有'{有'(刀, 两把), 钝} & 有'[有'{有'(刀, 两把), 钝}, 了]]」の二つの式 (S_1 と S_2 とする) を含み、これらは同時に成立しているので連言 (&) で結ばれている。また、 S_1 の第 2 項と S_2 の第 1 項が連鎖し、 S_2 の内部の部分命題もすべて連鎖している。全体として一つの出来事を表す。 S_2 は、「砍钝'」を使役関数とする 3 項関数を構成している。 S_1 と S_2 の式が示す意味を、日本語をメタ言語として用いて表すと、 S_1 は「(お祖父さん) ガ (これらの骨) ヲ (叩き切る)」となり、 S_2 は「(これらの骨) ガ、(二本の包丁) ニ、(お祖父さんがこれらの骨を叩き切り、それは包丁を用いてであり、その包丁が二本あり、二本の包丁が鈍るという属性を持ち、二本の包丁が鈍るという属性を持つことが[完了]する) トイウ状態ニサセル」となる。 S_2 の第 3 項の $\gamma 2②$ 「有'{有'(刀, 两把), 钝}」は、 S_1 の動作 (= $\gamma 1①$) に対して [時相] を構成し、 $\gamma 3$ 「有'[有'{有'(刀, 两把), 钝}, 了]]」は [時態] を構成している。また、 $\gamma 2②$ は命題が属性を持つことを表し、 $\gamma 3$ は命題の属性が属性を持つことを表している。このことから、[時相] を「命題の属性」、[時態] を「命題の

ではなく V “走” であり、“晚” は“我晚” でなく“走得晚” の意味を構成する。この文を論理式で示すと以下のようになる。

(13-a') 走'(我) & 有' {走'(我), 晚} & 有'[有' {走'(我), 晚}, 了]		
~が	ヲ~が ~[遅い]トウ属性ヲル	~が [完了]
$\gamma 1$	$\gamma 2$	$\gamma 3$
[動作]	[時相]	[時態]
(意味役割)	(量化)	(着点)

論理式を説明しておこう。 $\gamma 1$ の「走'(我)」は「動作」を表し、“我” は「動作主」の意味役割を持つ。 $\gamma 2$ の「有' {走'(我), 晚}」は、「私が出かける (去る) のが遅い」という意味を表す。袁毓林はこれを配価の観点から“晚” (遅い) が“走” (出かける) を項にとりとしているが、論理的には“晚” は「遅い」という時間の質を表し、「私が出かける」という動作が、遅いという時間の質 (属性) ヲモツ」という意味を構成する。これを論理式で表すと、「有' {走'(我), 晚}」となる。“走” は瞬間動詞であり、それ自身が「終わり」を持つが、「走'(我)」 (私が出かける) という命題が項となっているので“走” 自身の時相はキャンセルされる。“晚” (遅い) という時間の質 (性質) は「遅い-早い」という二者択一なので、部分の量 (50%) を確定したことになり「量化」といえる。つまり、“晚” により「時相」が充足される。 $\gamma 3$ は「動作の属性」が実現したこと、すなわち [完了] の [時態] を表す。また、VR だけに注目すれば、V が「主」、R が「述」の主述構造を構成している。

(4) の他の例文の論理式も示しておこう。

- (13-b') 来'(你) & 有' {来'(你), 迟} & 有'[有' {来'(你), 迟}, 了]
 (13-c') 歇'(他) & 有' {歇'(他), 久} & 有'[有' {歇'(他), 久}, 了]
 (13-d') 站'(他) & 有' {站'(他), 住} & 有'[有' {站'(他), 住}, 了]

② $V^2+R^1 \rightarrow VR^2$

(14) a. 这晚饭你吃早了 (この晩御飯はあなたが食べるのが早かった)

b. 这平房我住久了 (この平屋は私が住んで久しい)

c. 他逮着了一只猫 (彼は一匹の猫を捕まえた)

d. 我抓住了贼 (私は泥棒を捕まえた)

(袁毓林 2001: 402)

袁毓林の分析では、このタイプの項整合も R が V を項にとるために VR では R の配価が加算されない。そのため、VR の配価は V の配価のみを継承し 2 価となる。本論の分析における結論を先取りするならば、このタイプの 2 項 VR は使役の意味を持たない。この点を、以下で明らかにしたい。

まず、(14-a) の文 “这晚饭你吃早了” を見てみよう。この文は VR “吃早” の対象 “这晚饭” が前置しているように見える。しかし、実際は “这晚饭” は VR の対象ではなく、V の対象である。なぜならば、述語と項の意味関係を見ると、“晚饭” は V とのみ関係を結び “你吃晚饭” という意味を構成するからである。また、R “早” は V “吃” と結合して “吃得早” の意味を構成する。すなわち、この文は「あなたがこのご飯を食べる」と「このご飯を食べることが早かった」という命題を含む。これを論理式で表すと以下のようになる。

(14-a') 吃'(你,这晚饭)&有' {吃'(你,这晚饭),早} &有' [有' {吃'(你,这晚饭),早},了]
 ~が ~ヲ 毎~が ~[早]トト属性ヲ ル ~が [完了]
 r1 r2 r3
 [動作] [時相] [時態]
 (意味役割) (量化) (着点)

この式の r1 は「動作」を表し、“你” は「動作主」の意味役割、“这晚饭” は「対象」の意味役割を持つ。r2 は「あなたがご飯を食べることが、早いという時間の質（属性）を持つ」ことを表す。“早”（早い）という質（性質）は「早いー遅い」という二者択一なので、部分の量（50%）を確定し「量化」といえる。つまり、“早” は動作の [時相] を充足している。r3 は [完了] の [時態] を表す。r1、r2、r3 のそれぞれの命題は同時に成立するので連言 (&) で結ばれる。r1 が r2 の第一項となり、r2 が r3 の第一項となることで「連鎖」しているので、意味はこの順番で成立する。これにより、「動作」が「時相」を充足した後に「時態」を持つことがわかる。

ところで、この文は “你吃晚饭吃早了” という動詞コピー文からの派生であると考えられる。このように捉えるならば、(14-a) の文は “你吃这晚饭” と “你吃早了” の二つの命題表現から構成されていることになる。“你吃这晚饭” を S₁、“你吃早了” を S₂ とすると、S₁ の論理式は「吃'(你, 这晚饭)」で、S₂ の論理式は「吃'(你, 这晚饭)&有' {吃'(你, 这晚饭), 早} &有' [有' {吃'(你, 这晚饭), 早}, 了]」となる。S₁ と S₂ は同時に成立するので「S₁&S₂」となるが、S₁ と S₂ の第一命題が同一なので削除され、やはり (14-a') の式となる。

このように、この文の VR “吃早” は 2 項をとるが、“吃早” が実際に構成するのは “你吃早了” であるので、使役の意味は現れない。

同様に、(14-b) の文 “这平房我住久了” の論理式は以下のようになる。

(14-b) 住'(我,这平房)&有' {住'(我,这平房),久} &有' [有' {住'(我,这平房),久},了]
 ~が ~ニ 毎~が ~[久]トト属性ヲ ル ~が [完了]
 r1 r2 r3
 [動作] [時相] [時態]

次に、(14-c) の文 “他逮着了 一只猫” の文を見てみよう。この文は前述の二例とは異なり、V の対象 “一只猫” が VR の後ろに後置されている。しかし、この文も前述の二例と同様に “一只猫” は意味上 R “着” とは結びつかず、V “逮” と結びつき “他逮一只猫” (彼は猫を捕まえる) を構成する。また、R “着” は V “逮” と結びつき “逮着” (捕まえることができなかった) を構成する。これらの命題を論理式で表すと、それぞれ「逮’(他, 一只猫)」、 「有’{逮’(他, 逮一只猫), 着}」となり、さらに [完了] が生起し、全体の式は以下のようになる。

(14-c) 逮’(他, 一只猫)&有’{逮’(他, 一只猫), 着}&有’[有’{逮’(他, 一只猫), 着}, 了]
 捕_{NI}~が ~ヲ 𠄎 ~が ~[か_ウ]ト_ウ属性ヲ 𠄎 ~が [完了]
 $\gamma 1$ $\gamma 2$ $\gamma 3$

この式の $\gamma 1$ は「一匹の猫を捕まえる」という「動作」を表し、“他” は「動作主」、 “一只猫” は「対象」の意味役割を持つ。 $\gamma 2$ の “着” は “逮” (捕まえる) という動作が目的を「達成」したことを表し、彼が一匹の猫を捕まえることができなかったという出来事として完成する。 $\gamma 3$ は「完了」の「時態」を表す。すなわち $\gamma 1$ には「意味役割」、 $\gamma 2$ には「時相」、 $\gamma 3$ には「時態」が生起している。

(14-d) の文 “我抓住了 贼” も論理式で表してみよう。

(14-d) 抓’(我, 贼) & 有’{抓’(我, 贼), 住}&有’[有’{抓’(我, 贼), 住}, 了]
 捕_{NI}~が ~ヲ 𠄎 ~が ~[固定_ス]ト_ウ属性ヲ 𠄎 ~が [完了]
 $\gamma 1$ $\gamma 2$ $\gamma 3$

この式の $\gamma 1$ は「泥棒を捕まえる」という動作を表し、“我” は「動作主」、 “贼” は「対象」の意味役割を持つ。 $\gamma 2$ は “抓” (捕まえる) と動作が “住” (そのままにいる) という属性を持つことにより、「泥棒を捕まえたままにいる」という動作が一つの出来事として完成する。 $\gamma 3$ は「完了」の「時態」を表す。すなわち、 $\gamma 1$ には「意味役割」、 $\gamma 2$ には「時相」、 $\gamma 3$ には「時態」が生起している。

③ $V^3+R^1 \rightarrow VR^1$

このタイプの「消価」の例としては以下のような例がある。

(15) 昨天夜里我教晚了 (昨日の夜私は教えて遅くなった) (袁毓林 2001:403)

この文の VR に直接関わる部分 “我教晚了” を取り上げ、論理式で表してみよう。VR “教晚” の V “教” は “我” と結びつき “我教” (私が教える) を構成し、R “晚” は “教” と結びつき、“教到很晚” (教えて遅くなる) という意味を表す。すなわち、“我教晚了” は「私

題 (topic) として前置している文である。V “教” は “这孩子” と “钢琴” と結びつき「あなたがこの子供にピアノを教える」という命題を構成している。R “晚” は “教” と結びつき「あなたがこの子供にピアノを教えて遅くなる」という命題を構成している。第一の命題の論理式は「教’(你,这孩子,钢琴)」となる。第二の命題は、論理的には「あなたがこの子供にピアノを教えることが、遅いという時間の質を持つ」と解釈できるので、「有’{教’(你,这孩子,钢琴),晚}」と表記できる。これらの命題は同時に成立するので連言 (&) で結ばれ、さらに [完了] の意味が加わり、全体の式は以下ようになる。

(16-b’) 教’(你,这孩子,钢琴)& 有’{教’(你,这孩子,钢琴),晚}&有’[有’{教’(你,这孩子,钢琴),晚},了]
 教I~が ~に ~ヲ 忘レ ~が ~ヲ 尔 ~が [完了]
 r1 r2 r3

以上のように、(13)~(16) の例はすべて、「~が~ヲ~トイウ状態ニサセル」という文型意味を構成しない。このように、意味上 R が目的語と結合せず、V と結合する VR 文では使役の意味は現れないということが考察できる。

4.2.3 共価タイプ

袁毓林 (2001) によれば、「共価」は V と R の 1 つまたは複数の項が同じであるために、VR の配価数が V と R の配価数の総和から減算される項整合であり、組合せのパターンから複数のタイプに下位分類できる。以下では、各タイプとして袁毓林が挙げている例文を論理式で記述し、意味構造を分析する。

① $V^1+R^1 \rightarrow VR^1$

このタイプは、1 価の V と 1 価の R から 1 価の VR が作られる項整合で、以下のような例文が挙げられている。

- (17) a. 小鸡冻僵了 (ひよこが凍え死んだ)
 b. 阵雨下大了 (にわか雨が激しくなった)
 c. 孩子长高了 (子供が育って大きくなった)
 d. 奶奶站累了 (お祖母さんが立ち疲れた) (袁毓林 2001: 403)

まず、(17-a) の文を見てみよう。この文の日本語の訳は「ひよこが凍える (あるいは凍え死ぬ)」であるが、「ひよこが凍えて、固まるという状態になった」という意味内容を表している。これを命題として捉えると、この複合命題は「ひよこが凍える」と「ひよこが固まる」という命題を含む。第一の命題「ひよこが凍える」を論理式で表すと「冻’(小鸡)」となる。第二の命題「ひよこが固まる」は、「(ひよこが凍えて) ひよこが「固まる」という状態になる」と捉える。これを論理式で表すと「到’{冻’(小鸡),僵’(小鸡)}」となる。さ

らに [完了] の“了”の意味が加わり、全体の式は以下のようなになる。

(17-a') 冻'(小鸡)&到' {冻'(小鸡), 僵'(小鸡)}&有' [僵'(小鸡), 了]
 凍I ~が 至り ~が ~トウ状態ニ ｽﾙ ~が [完了]
 [意味役割] [時相] [時態]
 r1 r2 r3

この式の r1 は「ひよこが凍える」という生物の身体活動を表し、“小鸡”は「経験者」の意味役割を持つ。r2 は身体活動の結果「固まる」という状態になったこと表す。つまり、「凍える」は「固まる」という結果（状態の変化）を持つことで「時相」を充足し、一つの出来事として成立している。r3 は r2 の出来事が [完了] したことで、すなわち「時相」がさらに「時態」という属性を持つことを表す。r1、r2、r3 の部分命題は、同時に成立するので連言 (&) で結ばれ、全体として複合命題を構成している。また、この式は r1 が r2 の第 1 項になり、r2 全体が r3 の第 1 項になり、それぞれの部分命題が連鎖しているため、意味はこの順番で成立する。このように、この文の意味構造は r1、r2、r3 から構成される複合命題として捉えることができ、r1 には「意味役割」が、r2 には「時相」が、r3 には「時態」が順番に生起する。

次に、(17-b) の文“阵雨下大了”の論理式は以下のようなになる。

(17-b') 下'(阵雨)&到' {下'(阵雨), 大'(阵雨)}&有' [大'(阵雨), 了]
 降り ~が 至り ~が ~ニ ｽﾙ ~が [完了]
 r1 r2 r3

次に、(17-c) の文“孩子长高了”の論理式は以下のようなになる。

(17-c') 长'(孩子)&到' {长'(孩子), 高'(孩子)}&有' [高'(孩子), 了]
 育子 ~が 至り ~が ~ニ ｽﾙ ~が [完了]
 r1 r2 r3

次に、(17-d) の文“奶奶站累了”の論理式は以下のようなになる。

(17-d') 站'(奶奶)&到' {站'(奶奶), 累'(奶奶)}&有' [累'(奶奶), 了]
 立ち ~が 至り ~が ~ニ ｽﾙ ~が [完了]
 r1 r2 r3

② $V^2+R^1 \rightarrow VR^1$

このタイプは2 価の V と 1 価の R から 1 価の VR が作られる項整合で、以下のような例が挙げられている。

- (18) a. 小明学好了 (小明は学んで良くなった)
 b. 桐桐学乖了 (桐桐は学んで賢くなった) (袁毓林 2001:404)

(18-a) は、「小明が何かを習得した」と、「小明が何かを学んで、小明が良くなった」という二つの意味に解釈できるが、ここでは袁毓林の意図に従い後者の意味として分析する。後者の意味として捉えると、この文は「小明が何かを学ぶ」と「小明が良くなる」という命題を含む。“学”は2 項動詞だが、ここでは“学”の「対象」は現れていないので、項が「何か」であることを示す記号「 ϕ 」(ファイ)を用いると、第一の命題「小明が何かを学ぶ」の論理式は「学'(小明, ϕ)」と表すことができる。第二の命題「小明が好くなる」は、「好い」を「小明が何かを勉強する」という行為の結果として捉えると、「小明が何かを学んだ結果、小明が良くなる」と解釈できるので、「到' {学'(小明, ϕ), 好'(小明)}」と表記できる。さらに、[完了]の意味が加わり、全体の式は以下ようになる。

- (18-a') 学'(小明, ϕ) & 到' {学'(小明, ϕ), 好'(小明)} & 有' [好'(小明), 了]
 学^レ ~ガ ~ヲ 至リ ~ガ ~ニ ル ~ガ [完了]
 $\gamma 1$ $\gamma 2$ $\gamma 3$
 [意味役割] [時相] [時態]

この式の $\gamma 1$ は「小明が学ぶ」という行為を表わし、“小明”は「動作主」の意味役割を持つ。 $\gamma 2$ は「小明が勉強する」という行為が「良くなる」という結果を持つことを表わす。「小明が学ぶ」は「良くなる」という結果を持つことで、[時相]を充足し、一つの出来事として成立している。 $\gamma 3$ は出来事が [完了] したことで、すなわち[時相]がさらに「時態」という属性を持つことを表わす。このように、この文の意味構造は $\gamma 1$ 、 $\gamma 2$ 、 $\gamma 3$ から構成される複合命題として捉えることができ、 $\gamma 1$ には「意味役割」が、 $\gamma 2$ には「時相」が、 $\gamma 3$ には「時態」が順番に生起する。

同様に、(18-b) の文の論理式は、以下ようになる。

- (18-b') 学'(桐桐, ϕ) & 到' {学'(桐桐, ϕ), 乖'(桐桐)} & 有' [乖'(桐桐), 了]
 学^レ ~ガ ~ヲ 至リ ~ガ ~ニ ル ~ガ [完了]
 $\gamma 1$ $\gamma 2$ $\gamma 3$

③ $V^2+R^1 \rightarrow VR^2$

このタイプは、2 価の V と 1 価の R から 2 価の VR が作られる項整合で、以下のような

例文が挙げられている。

- (19) a. 这衣服把我洗累了 (この服は私を、洗うことで疲れさせた)
b. 他洗干净桌布 (彼はテーブルクロスを洗ってきれいにした)
c. 白馒头把她吃胖了 (白マントウは彼女を、食べることで太らせた)
d. 这水沟你们挖浅了 (この排水溝はあなたたちが浅く掘ってしまった)

(袁毓林 2001:404)

まず、(19-a) の文を見てみよう。この文は、“把”構文である。松村 (2005) は、“把”構文は、「 \sim ガ \sim ニ \sim トイウ状態ヲモタラス」という [授与] の意味を表し、「把 $'(\alpha, \beta, \gamma)$ 」という論理式で表記できるという見解を示した。本論でも、この見解に依拠し、“把”構文の論理構造として「把 $'(\alpha, \beta, \gamma)$ 」という式を用いることにする。(19-a) の文では、「 \sim ガ」にあたる α 項は“这衣服”で、「 \sim ニ」にあたる β 項は“我”である。陳述文において主語は陳述の対象であり、最初に確定すると考えるのが自然である。よって、この意味構造においては、 α 項「(この服) ガ」が最初に決定し、次に β 項「(私に) ニ」が決定する。 γ 項「 \sim トイウ状態ヲ」には“洗累了”という意味が現れるが、述語は項の情報をすべて含むので“这衣服洗累了我”という意味が現れることになる。“这衣服洗累了我”は「私がこの服を洗う」と「この服が私を疲れさせた」という命題を含む。これを論理式で表すと、 γ 項は以下のようなになる。

- (19-a') 洗累' [这衣服, 我, 洗' (我, 这衣服) &到' {洗' (我, 这衣服), 累' (我)} &有' [累' (我), 了]]
サレ_ル \sim ガ \sim ニ \sim トイウ状態

この γ 項の式を“把”構文の式「把 $'(\alpha, \beta, \gamma)$ 」に代入すると、(19-a) の文全体の論理式は以下のようなになる。

- (19-a'') 把' [这衣服, 我, 洗累' [这衣服, 我, 洗' (我, 这衣服) &到' {洗' (我, 这衣服), 累' (我)}]
サレ_ル \sim ガ \sim ニ
モタラス \sim ガ \sim ニ
&有' {累' (我), 了}]
 \sim トイウ状態ニ
 \sim トイウ状態ヲ

次に、(19-b) の文“他洗干净桌布”を見てみよう。この文の論理式は以下のようなになる。

- (19-b') 洗干净' [他, 桌布, 洗' (他, 桌布) &到' {洗' (他, 桌布), 干净' (桌布)} &有' {干净' (桌布), 了}]
サレ_ル \sim ガ \sim ニ \sim トイウ状態ニ

次に、(19-c) の文 “白馒头把她吃胖了” を見てみよう。この文も (19-a) と同様に “把” 構文である。したがって、文型意味として「～ガ～ニ～トイウ状態モタラス」という [授与] の意味を持ち、3 項関数「把'(α, β, γ)」を構成する。この式では、まず α 項 “白馒头” が決定し、次に β 項 “她” が決定する。 γ 項には全体の意味 (内包) が現れる。 γ 項の論理式は以下のようになる。

(19-c') 吃胖' [白馒头, 她, 吃' (她, 白馒头) & 到' {吃' (她, 白馒头), 胖' (她)} & 有' {胖' (她), 了}]
 サレ ～ガ ～ニ ～トイウ状態ニ

これを “把” 構文の式「把'(α, β, γ)」に代入すると、(19-c) の文の論理式は以下のようになる。

(19-c'') 把' [白馒头, 她, 吃胖' [白馒头, 她, 吃' (她, 白馒头) & 到' {吃' (她, 白馒头), 胖' (她)}
 モタラス ～ガ ～ニ
 & 有' {胖' (她), 了}]
 ～トイウ状態ヲ

最後に、(19-d) の文 “这水沟你们挖浅了” を見てみよう。この文は、VR の受動者 “这水沟” が主語の位置に前置されていて、いわゆる受動者主語文となっている。本稿では、受動者主語文は話題文と位置付け、また話題文の命題的な意味は元位置と同じであると考え。そこで、この文の元位置の文 “你们挖浅了这水沟” の意味構造を論理式で記述すると、以下のようになる。

(19-d') 挖浅' [你们, 这水沟, 挖' (你们, 这水沟) & 到' {挖' (你们, 这水沟), 浅' (这水沟)}
 サレ ～ガ ～ニ
 & 有' {浅' (这水沟), 了}]
 ～トイウ状態ニ

さらに、話題化を含めた論理式で表すとするならば、これを「～ガ～トイウ状態ニアル」という論理構造を用いて以下のように表記できる。

(19-d'') 有' [这水沟, 挖浅' [你们, 这水沟, 挖' (你们, 这水沟) & 到' {挖' (你们, 这水沟), 浅' (这水沟)}
 アル ～ガ
 & 有' {浅' (这水沟), 了}]
 ～トイウ状態ニ

(21-a”) 把’[她，小强，P]

モラス～ガ’ ～ニ ～トウ状態ヲ

P=教好’[她,小强,教’(她,小强,φ)&到’{教’(她,小强,φ),好’(小强)}&有’{好’(小强),了}]

サレ’ ～ガ’ ～ニ

～トウ状態ニ

次に、(21-b’) の文 “我把他教聪明了” を見てみよう。この文も “把” 構文なので、「～ガ’ ～ニ～トウ状態ヲモタラス」という文型意味を持ち、「把’(α,β,γ)」という論理構造で表記できる。「把’」関数の要求により、α項には “我” が入り、β項には “他” が入る。γ項には、「私が彼に何かを教えて、彼が賢くなるという状態にさせた」という命題内容が現れる。この命題内容は、「私が彼に～という状態にさせる」、「私が彼に何かを教える」、「彼が賢くなる」、「～が [完了] した」という命題を含む。これを論理式で表すと、以下のようになる。

(21-b’) 教好’[我,他,教’(我,他,φ) &到’{教’(我,他,φ),聪’(明他)} &有’{聪’(明他),了}]

モ’ ～ガ’ [様態]ヲ スル ～ガ’ [完了]

サレ’ ～ガ’ ～ニ

～トウ状態ニ

この式を “把” 構文の論理構造 「把’(α,β,γ)」のγ項に代入すると、(21-b) の文の論理式が得られる。(21-b’) の論理式を P とすると、(21-b) の文の論理式は以下のように表記できる。

(21-b”) 把’[她，小强，P]

モラス～ガ’ ～ニ ～トウ状態ヲ

P=教好’[我,他,教’(我,他,φ) &到’{教’(我,他,φ),聪明’(他)} &有’{聪明’(他),了}]

サレ’ ～ガ’ ～ニ

～トウ状態ニ

⑥ $V^3 + R^2 \rightarrow VR^3$

このタイプは、3 価の V と 2 価の R から 3 価の VR が構成される項整合で、以下のよう
な例が挙げられている。

(22) a. 我教会了孩子弹钢琴 (私が教えて子供がピアノを弾けるようにした)

b. 道理我跟她讲明白了 (道理は、私が彼女に話してわからせた) (袁毓林 2001: 405)

まず、(22-a) の文 “我教会了孩子弹钢琴” を見てみよう。この文は「私が子供にピアノを弾くことを教えて、子供がピアノを弾くことができるという状態にさせた」という意味内容を持つ。すなわち、「私が子供に～という状態にさせる」、「私が子供にピアノを弾くことを教えた」、「子供がピアノを弾くことができる」、「～が [完了] した」という命題を含む。

「私が子供に～という状態にさせる」はこの文全体にかかる文型意味を構成し、残りの命題は部分命題として生起する。「私が子供に～という状態にさせる」は「～ガ～ニ～トイウ状態ニサセル」という論理構造を構成する。これは、「教会’」を使役関数として用いて「教会’(α, β, γ)」という式で表記できる。関数「教会’」の要求により、 α 項には“我”が入り、 β 項には“孩子”が入る。 γ 項には「私が子供にピアノを弾くことを教えた」、「子供がピアノを弾くことができる」、「～が [完了] した」が生起するが、これらは同時に成立するので連言 (&) で結ばれる。全体の論理式は以下ようになる。

(22-a’) 教会’[我,孩子,教’ {我,孩子,弾’(孩子,钢琴)}] &到’[教’ {我,孩子,弾’(孩子,钢琴)}],
 サル ～ガ～ニ 至リ ～ガ
 会’ {孩子,弾’(孩子,钢琴)}] &有’[会’ {孩子,弾’(孩子,钢琴),了]}
 ～ニ スル ～ガ [完了]
 ～トイウ状態ニ

次に、(22-b) の文“道理我跟她讲明白了”を見てみよう。この文はVR“讲明白”の目的語“道理”が前置されている話題文である。そこで、元位置の“我跟她讲明白了道理”の意味を分析することにする。この文は“跟”が用いられているので、「～ガ～ニ～スル」という文型意味を抽出して、「跟’(α, β, γ)」という関数で表記することもできるが、ここでは袁毓林の分析に従い“跟～讲”を3価動詞とみなすこととする。“我跟她讲明白了道理”は“我跟她讲道理”と“她明白道理”の命題表現を含み、これらの間には「～ガ～ニ～トイウ状態ニサセル」という使役の意味が生じている。そこで、これを文型意味とし抽出すると、VR“讲明白”を使役関数とする論理構造「讲明白’(α, β, γ)」で表記できる。関数「讲明白’」の要求により、 α 項には“我”、 β 項には“她”が入る。 γ 項には命題の内包として、「私が彼女に道理を話す」、「彼女が道理をわかる」、「～が[完了]した」という部分命題がすべて現れる。これらは同時に成立しているので、連言 (&) で結ばれる。全体の論理式は以下ようになる。

(22-b’) 讲明白’[我,她,讲’ (我,她,道理)] &到’ {讲’ (我,她,道理),明白’ (她,道理)} &
 サル ～ガ～ニ 至リ ～ガ ～ニ
 有’ {明白’ (她,道理),了]}
 スル ～ガ [完了]
 ～トイウ状態ニ

この式には、“跟”が現れないが、「讲’ (我,她,道理)」が3項となることで、「～ガ～ニ～ヲ話ス」という意味を構成し、この関数「讲’」に“跟”の意味が併合されている。この式は、命題の意味としては (22-b) の文“道理我跟她讲明白了”の意味を表わしているが、話

題化の意味を含めた論理式を表記しておこう。(22-b') の式を「P」で略記すると、(22-b)は以下のように表記できる。

(22-b') 有' [道理, P]

アル〜ガ' ~トウ状態ニ

P=讲明白' [我, 她, 讲' (我, 她, 道理) & 到' {讲' (我, 她, 道理), 明白' (她, 道理)} &

サセル ~ガ' ~ニ

有' {明白' (她, 道理), 了}

~トウ状態ニ

4.3 本章の結び

本章では、袁毓林 (2001) が項整合の異なる VR (「併価」、「消価」、「共価」) として取り上げた例文について、命題論理と述語論理を用いて表記し、それぞれのタイプの VR が意味を形成する過程においてどのような特徴を持つのかを示した。

「併価」タイプは、V と R の配価する項がすべて VR の配価する項になるが、R の項 (経験者) が VR の内項 (対象; 袁毓林では受動者) となるため使役の意味構造を構成する。袁毓林は、①「 $V^1+R^1 \rightarrow VR^2$ 」類は VR が 2 価 (他動詞) に項整合され、②「 $V^2+R^1 \rightarrow VR^3$ 」類は、「使役主」を含む 3 価に項整合されると分析している。本論では、①の類は VR が使役の 3 項関数「 $VR'(\alpha, \beta, \gamma)$ 」(〜ガ' ~ニ ~サセル) を構成し、②の類は第一式と第二式からなるコピー構造を持ち、第二式に VR が構成する使役の 3 項関数が生起することを論理式で示した。

「消価」タイプは、R が V を項とするために、VR の配価数が 1 価少なくなるものであるが、意味関係としては R が主語指向でも、目的語指向でもなく、V と関係する。このタイプは使役の論理構造「 $VR'(\alpha, \beta, \gamma)$ 」を構成しないため、 γ 項 (命題的意味) のみの論理構造となる。 γ^2 には V が項として生起し、R が V の「属性」を表す。

「共価」タイプは、V と R の配価のうち共通の項が減算されるものであるが、VR が 1 価 (自動詞) となるもの (①「 $V^1+V^1 \rightarrow V^1$ 」、②「 $V^2+V^1 \rightarrow V^1$ 」) と、VR が 2 価 (他動詞) となるもの (③「 $V^2+V^1 \rightarrow V^2$ 」、④「 $V^2+V^2 \rightarrow V^2$ 」、⑤「 $V^3+V^1 \rightarrow V^2$ 」) がある。本論では、このうち 2 価となる VR はすべて、VR が使役を表す 3 項関数として機能し、「 $VR'(\alpha, \beta, \gamma)$ 」の使役構造を構成することを論理式で示した。また、1 価の VR は自動詞的に機能し他動的な「使役」義を生起しないため、使役構造を持たない γ 項のみの論理構造として記述した。しかし、単独の自動詞と異なり自動詞的 VR は V と R がそれぞれ原因と結果の意味を表すので、他動性は持たないが論理的には使役構造 (再帰的使役構造) を構成しうる。自動詞的 VR の再帰的使役構造については次章で論ずる。

(注)

- 1) 言語学における「価 (valence)」の概念は、化学の配価学説から啓発されたもので、動詞と一定数の名詞成分 (NP) の間の依存関係 (dependency) を指す。そのうち、動詞は支配成分、NP は従属成分である。従属成分は、配価成分 (「価」と略称)、あるいは配項 (dependency constituent) ともいう。一つの NP と結合する動詞を一価動詞、二つの NP と結合する動詞を二価動詞、三つの NP と結合する動詞を三価動詞という。つまり、「価」は動詞の支配能力の数量を表わし、動詞の結合能力に基づき形成された文法範疇である (袁毓林 2010: 4-5)。
- 2) 袁毓林 (2001) は、VR を述語 (V) と補語 (R) からなる述結式と述べている。
- 3) 松村 (2011: 講義) は、VR が有する「時相」のモデルを「動作の始まり」と「動作の終わり」を持つ「 $V_{\alpha}V_{\beta}$ 」と想定した。つまり、VR は、V が「動作の終わり」を表す R を持つことで時相が充足する。
- 4) 袁毓林 (2010: 460) 参照。
- 5) コピー構造 (“拷贝结构”) とその話題化の詳細については、袁毓林 (2010: 459-468) 参照。

第5章 VRの特徴と論理構造

5.0 はじめに

「動詞-結果補語複合語 (verb resultative compound)」(以下 VR という)のうち、あるタイプの VR が使役の意味を表すことについてはすでに多くの言及があり、さまざまな理論を用いた研究がなされている。しかし、VR を含む文(以下、VR 構文と呼ぶ)の構造と使役義の関係については明確になっていない。VR の V と R は意味上独立した述語として機能し二つの出来事を叙述する。V の述べる出来事が先行して起き、R の述べる出来事はその結果状態を表す。使役は、二つの連続する出来事において、後者の出来事が前者の出来事に依存して起こる「因果関係」を捉えた概念であり、使役を表わす VR 構文においても二つの出来事の間「因果関係」が生じている。では、これらの文ではどのように意味が構成され因果関係を生起するのか。また、使役の意味を表す VR と使役を表さない VR は、論理構造上どのように異なっているのか。本章では、形式意味論の立場から VR 構文が構成する使役の論理構造について分析する。

5.1 VR の基本的特徴

まず、VR の結合レベルと V と R のそれぞれの特徴に関して言及している先行研究を参照し、VR の基本的特徴を概観する。

5.1.1 VR の結合レベル

VR の結合が、統語レベルで起きるのか語彙レベルで起きるのかについては研究者によって意見が分かれている。統語上で結合されると考える立場ではこれをフレーズ構造としているが、本論ではこれを語彙的結合の「動詞 - 結果補語 (VR) 複合語」と捉える。

5.1.1.1 複合語的特徴

朱徳熙 (1982) によれば、VR は統語上では一つの動詞のように機能し、次のようにアスペクトの“了”、“过”を伴うことができる。

- (1) a. 学会了开车 (車の運転をマスターした) (朱徳熙 1982:126)
- b. 从来没喝醉过 (これまで酒を飲んで酔ったことがない) (朱徳熙 1982:126)

また、朱徳熙は、VR は動詞と同じようにそれ自身が自動詞と他動詞の区別を持つと述べている。

- (2) a. 哭哑了嗓子 (泣いてのどを枯らした) (朱徳熙 1982:127)
 - b. 这辆车买贵了 (この自転車は買ったのが高かった) (朱徳熙 1982:127)
- (2-a)の“哭哑”は他動詞として機能し、(2-b)の“买贵”は自動詞として機能している。

注意すべきは、(2-a) の V “哭” と R “哑” が共に自動詞であるのに VR “哭哑” が他動詞となり、(2-b) の V “买” が他動詞であるのに VR “买贵” が自動詞となっていることである。また、朱徳熙は、(2-b) の文は “*买贵了这辆车” のように他動詞的に言うことはできないと述べている¹⁾。また、李臨定 (2011) によれば、“买贵” は次のようにコピー動詞を用いることで動作主主語の文にすることができる。

(3) 他买鞋买贵了 (彼は靴を高く買ってしまった) (李臨定 2011:256)

これらのことから、“买贵” はそれ自身が一つの動詞としては目的語を伴うことができず、自動詞的な用法しか持たないことがわかる。

5.1.1.2 フレーズ的特徴

朱徳熙 (1982: 127) は、次のような例を挙げ VR は比較的自由に組合せることができると指摘している。

(4) a. 洗干净 (洗ってきれいになる)

b. 洗脏/洗破/洗丢 (洗って汚くなる/洗って破れる/洗ってなくなる)

朱徳熙は、(4-a) の “洗干净” はよく使われる組み合わせだが、これは “洗” がもたらす最も自然な結果が “干净” だからであり、(4-b) のように用いることも、“把我洗糊涂了” (私を洗濯によって困惑させる)、“把她洗哭了” (彼女を洗濯によって泣かせる) のようにも言うことができると述べている。つまり、語彙的に固定された意味を持つ動詞に比べて、VR は発話者の自由な造語により生産的に意味を作り出せる。

このように、VR は高い自由度を保持している点ではフレーズ構造の特徴を備えるが、統語上一つの動詞のように機能するという点では複合語と見なすことができる。そこで、本論では、VR を「臨時的な複合語」²⁾ と捉えることにする。

5.1.2 VR の目的語

VR のうち、後ろに名詞成分を伴い「VR+目的語」の形を取るものは使役の意味を表す。この名詞成分は V や R の目的語ではなく VR の目的語であるといえる。なぜならば、このタイプの VR の V には他動詞の他に、(2-a) の “哭哑” の “哭” ように目的語を取れない自動詞も用いられるからである。このような VR が用いられている文としては、次のような例がある。

(5) 连萧队长也笑弯了腰 (李臨定 2011: 264, [周立波])

(肖隊長でさえ笑って腰を曲げた)

この文の “笑弯” の “笑” は自動詞なので “笑腰” のように言うことはできないが、“弯” という補語を伴うことで、“腰” を目的語に取り他動詞的に機能することができる。李臨定 (2011) によればこのような文は、“把” 構文に変換することができる。

(6) 萧队长把腰也笑弯了 (李临定 2011: 264)

(肖隊長でさえ笑って腰を曲げた)

5.1.3 V と R の動詞タイプ

VR の V と R には、文法機能上異なる性質の動詞 (または形容詞) が生起する。VR の V には自動詞、他動詞の両方が用いられ、R には非意志性の自動詞、または形容詞が多く用いられる。(ただし、“看懂”などの限られた組合せでは R に他動詞が用いられることがある³⁾。) 朱徳熙 (1982) は、VR の結果補語には、形容詞と動詞の両方が用いられるとして、次のような例を挙げている。

(7) a. 動詞(V)+形容詞(R): 长大、变小、染红、拧紧、切破、晒干、走远、拉长、拌匀、煮熟、洗干净、说清楚。

b. 動詞(V)+動詞(R): 看见、听懂、学会、踢倒、拿走、写成、杀死、打破、弄丢、说完。

(朱徳熙 1982: 126)

実例としては、次のような文がある。

(8) 几年不见，这孩子长大了，也懂事多了。(《搭配》: 73)

(数年会わないうちに、この子は大きくなって、物分りもずいぶんよくなった。)

(9) 这张油画挂低了，显得不好看。(《搭配》: 111)

(この油絵は低く掛けすぎた、見栄えがよくない。)

(10) 你来巧了，这种型号的鞋我们刚刚进货。(《搭配》: 268)

(あなたはちょうど良いときに来た、このサイズの靴は今入荷したばかりです。)

(11) 你不要过分伤心，哭坏了身体怎么办？(《搭配》: 176)

(あなたは悲しみすぎてはだめです、泣いて体を壊したらどうするの？)

(12) 那场森林大火烧死了不少野兽。(《搭配》: 306)

(あの森林の大火事は沢山の野生動物を焼き殺した。)

(8)の“长大”は、Vの“长”が自動詞でRの“大”が形容詞である。(9)の“挂低”は、Vの“挂”が他動詞で、Rの“低”が形容詞である。(10)の“来巧”は、Vの“来”が自動詞で、Rの“巧”が形容詞である。(11)の“哭坏”は、Vの“哭”と、Rの“坏”が共に自動詞である。(12)の“烧死”は、Vの“烧”が他動詞で、Rの“死”が自動詞である。このように、VRのVには他動詞も自動詞も用いられるが、VRのRは自動詞か形容詞である。自動詞と形容詞を、関数(function)と項(argument)からなる述語論理を用いて表すと、共に1項述語と捉えることができる。たとえば、Rが構成する部分命題を述語論理で記述すると、(8)は「大’(这孩子)」、(12)は「死’(野兽)」のように一項述語で記述できる。述語論理では一項述語は述語(関数)が項の属性を表すと解釈されるので、述語の「大’」、「死’」は、項の“这孩子”、“不少野兽”の属性を表すといえる。このように、VRのRは論理的には1項述語として統一的に捉えられる。

5.1.4 VR の使役義—「目的語指向型」と「主語指向型」

前述のように、VR はそれ自体が自動詞、あるいは他動詞として機能する。他動詞として機能する VR の中で、李臨定 (2011) は、次のような VR は「使役」の意味を表すと述べている。

(13) (他) 觉得阳光刺痛了眼睛, 用手揉了揉两下 (李临定 2011: 259, [巴金])

((彼は) 太陽の光が刺して目がずきずき痛むのを感じ、手で二、三度こすった)

(14) (雪花) 刷刷的轻响, 落白了地 (李临定 2011: 264, [老舍])

(雪がさらさらと音をたてながら落ち、地面を白くした)

「使役」は、「X が、Y が～する (なる) ことをしむける」ことであり、「Y が～する (なる)」という出来事が X によって起こったことを表わしている。つまり、使役は全体としては「X が Y に～をしむける」という意味をもち、他動性を持つ。そのため、使役義を持つ VR は他動詞のように機能する。しかし、次のような VR 文は使役の意味を表さないとされる。

(15) 我看懂了这幅画了 (私はこの絵を見てわかる) (李临定 2011: 256)

(16) 我已经听烦了这些话了 (私はこのような話はもう聞き飽きた) (李临定 2011: 257)

これらの文の R が叙述する対象は、使役義を持つ (13)、(14) の R とは異なっている。(15) では、R “懂” は目的語 “这幅画” ではなく主語 “我” を叙述し、“我懂了” という命題を構成している。(16) では、R “烦” が目的語 “这些话” ではなく主語 “我” を叙述し、“我烦了” という命題を構成している。一方、使役義を持つ (13)、(14) では R “痛”、“白” はそれぞれ目的語の “眼睛”、“地” を叙述している。前者のように R が「主語指向」である VR を「主語指向型」、後者のように R が「目的語指向」である VR を「目的語指向型」と呼ぶことにする。つまり、「目的語指向型」の VR は使役義を持つ。Simpson (1983) は、英語の結果構文の考察から、結果を表す述語は主語の状態ではなく目的語の状態を表していなければならないという規則を提示した。

(17) a. I froze the icecream solid. (私はアイスクリームをカチカチに凍らせた。)

b. I melted the butter to a liquid. (私はバターをドロドロに溶かした。)(Simpson1983: 143)

(18) a. *I melted the steel hot.

b. *I ate the food full /sick. (Simpson1983: 144)

結果述語は、(17) の(a)、(b)のように目的語の状態を叙述できるが、主語の状態を叙述することはできない。たとえば、(18-a) のように用いて、「私は鉄を溶かして、体が熱くなった」という意味を表すことはできない。また、(18-b) のように用いて「私は食べて、腹いっぱいになった／病気になった」と言うことはできない。Levin and Rappaport Hovav (1995) は、この規則が前置詞の目的語には適用されず、他動詞の目的語にのみ適用されることか

ら「結果補語は直接目的語を叙述する」という「直接目的語制限」(Direct Object Restriction: DOR)⁴⁾を設けた。ODR については他言語にも適用されることが知られており、影山(2001: 154-181)は、このような規則性は日本語にもあてはまると述べている。しかし、中国語では(18-b)の文は“吃饱”(食べて腹いっぱいになる)、“吃病”(食べて病気になる)のように用いることができる。中国語の「主語指向型」のVRがODRに違反するというこのような問題について⁵⁾、何元建(2011)は、これらを並列構造と見なすことで解決できると述べ、次のような英語の文に対応する中国語を例に説明している。

(19) a. John ate beef raw. (ジョンは生のまま牛肉を食べた。)

b. *John ate beef tired. (*ジョンは牛肉を食べ疲れた。) (何元建 2011: 264)

(19-b)の文の補語“tired”は、主語の“John”を指示しているので非文となる。しかし、(19-b)のような文の内容を中国語にすると、“张三吃牛肉吃累了。”のように言うことができる。何元建は“吃累”のようなVRを動補型の「V1-V2」と見なさず、V1とV2がそれぞれ述語として並列構造を構成する「非動補型」とすることでODRの違反とならないと主張した。しかし、このような仕分けは「目的指向型」のVRがODRに違反しないことを説明できても、中国語の「動詞 - 補語」の結合によるVRを統一的に捉えることを目的とする本論の立場からは有用とはいえない。本論では、“吃累”のような「主語指向型」のVRを「再帰的」VRと捉えることで、このようなVRのRも「目的語指向」と見なすことができ、これらを統一的に捉えることができると考える。詳細は以降の節で論じる。

5.2 VRの分類と論理構造

VRの典型的なタイプは、“他打碎了杯子”(彼はコップをぶつけて割った)のように他動的に用いられるもので、Vが表す“他打杯子”という出来事とRが表す“杯子碎了”という出来事が、「原因 - 結果」の関係を構成し、目的語が結果出来事の主体を担う。このようなタイプのVR文が使役義を持つことはすでに述べた。しかし、VR“打碎”は、“杯子打碎了”(コップは割れてしまった)のように自動詞的にも用いられる。使役は、概念的には他動的な事態に結果状態が現れている状態と捉えられるので、使役的事態は他動的事態を含意する。では、自動詞的に用いられるVRは使役構造を持たないのだろうか。

同型のVRが、他動詞的にも自動詞的にも用いられる例としては、次のような例もある。

(20) a. 她做梦哭醒了。(搭配: 348)

(彼女は夢を見て、泣いて目覚めた。)

b. 恶梦哭醒了妹妹。(何元建 2011: 264)

(悪夢が妹を泣いて目覚めさせた。)

以下では、このような他動詞的に用いられるVRと自動詞的に用いられるVRの関係に注目し、それぞれの論理構造を明示することで、これらのタイプのVRが構成する構造を明確にする。また、使役の概念が他動性と関係することを述べる。